流通とＳＣ・私の視点

2012 年 7 月 23 日

視点(1610)　ニューポピュラークラス（新庶民層）の出現の背景!!

（生活様式と消費者心理編）

経済が成熟すると「低所得者層」と「高所得者層」に所得構造が２極化します。この経済の成熟時代の低所得者層は、貧困ではない低所得者層であり**「ニューポピュラークラス（新庶民層）」**と呼びます。

この成熟経済の所得構造の２極化の背景は次の通りです（六車流：マーケティング理論）。

産業革命（1760～1830 年・18 世紀半ばから 19 世紀半ばにイギリスで起こった技術革新を伴う社会変革）による大量生産・大量販売・大量消費の経済システムは、20 世紀後半にモダン消費の終焉によって完成しました。先進国は産業革命により大量生産した製品を国内ではなく海外で販売するために帝国主義化が起こりましたが、第２次世界大戦後は先進国は輸出による海外での販売（外需）と、国内の経済を豊かにすることにより国内消費者への販売（内需）により「自国の経済を発展させ、自国の国民の生活を豊かにする方法」で成功しました。

このモダン消費の終焉後の成熟経済は、産業革命以来 200 年以上続いてきた経済体制の終わりをも意味します。すなわち、アメリカや日本や西欧の一部は、産業革命による大量生産システムによる大量販売・消費システムを完成させ、産業革命の役割が終わったのです。それゆえに、全く新しい発想に基づき、新しい消費経済構造を創出しないとＧＤＰ（産業革命志向のモノ生産・消費の経済指数）は上がりません。経済が成熟した後の経済発展は「成長ではなく成熟」です。それゆえに、量的に拡大するのではなく、一定の量の中での新陳代謝（新技術概念と従来技術概念の入れ替え）が中心となり、それゆえに経済成長（ＧＤＰ）は、モダン消費時代の半分（モダン消費時代は５～７～10%）の低成長経済となります。

この成熟経済下では、所得構造は次のような変化が起こります。

①成熟経済は低成長であり、新たな労働力の必要性が低下します。同時に、モノづくりは海外へ依存（工場の移転あるいは輸入）しますので、労働力需要の減少と新興国労働者との同質化により低所得化が起こります。

②成熟経済は次の新しい時代の過渡期であり、技術革新が起こり、少数の勝ち組（時代の変化に対応する能力を持つ人材）と多数の負け組（時代の変化に対応できない能力を持つ人材）に２極化します。すなわち、新たな変化の時で、時代対応できる人材は所得が高まりますが、時代変化に対応できない人材は能力の非適合化と単純労働化により低所得が起こります。

過去において産業革命による技術革新は、能力の単純化及び同質化により労働者を窮地に追い込み、低賃金・過労働へ進みました。**技術革新は「一方においては人材の単純化・同質化を起こし、低所得化」が進みますが、「もう一方においては、新たな産業が形成され、人材需要が高まり所得の向上化」が進みます**。今、日本は成熟経済の初期であり、新旧の人材の入れ替わりができていませんので下記のような低所得化が進展しています。

ブルーカラー社会では、海外への工場進出や新興国労働者との同質化により、所得は低下しています（ただし、管理職と創造的知識人材は高所得化が進む）。

ホワイトカラー社会では、情報技術が発展して、情報システム装置に仕事を奪われて、所得は低下しています（ただし、管理職と研究・開発人材は高所得化が進む）。

サービス社会では、システム化・マニュアル化により技術的に仕事量が少なくなり、かつ単純化して所得は低下しています（ただし、管理職と技術職人的人材は高所得化が進む）。

このように、成熟経済時代は量的消費力が落ち、社会が要求する人材の単純化と人材の同質化による低賃金化が必然的に起こります。また、この段階の低所得者層は豊かな社会で育っているため所得は低いが知的水準が高く、かつモノ離れしたこだわり消費をする消費者です。

この低所得かつこだわりを持つ消費者を**ニューポピュラークラス（新庶民層）**と呼びます。

(株)ダイナミックマーケティング社[+6]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2012 All rights reserved.